

製品名: RXRA ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17450**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、ウシ、アヒル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	RXRA NR2B1
別名	
遺伝子 ID	6256.0
SwissProt ID	P19793
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 200~280

背景

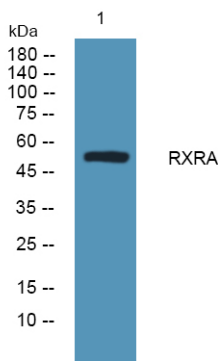
レチノイド X 受容体 α (RXRA) ホモサピエンス レチノイド X 受容体 (RXR) とレチノイン酸受容体 (RAR) は、レチノイン酸を介した遺伝子活性化に関与することで、レチノイドの生物学的効果を媒介する核内受容体です。これらの受容体は、標的遺伝子のプロ

モーター領域の特定の配列にホモ二量体またはヘテロ二量体として結合することにより、転写因子として機能します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写調節因子のステロイドおよび甲状腺ホルモン受容体スーパーファミリーのメンバーです。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2014年5月], domain:3つのドメイン (調節 N 末端ドメイン、DNA 結合ドメイン、C 末端ステロイド結合ドメイン) から構成されます。、function:核内ホルモン受容体。レチノイン酸応答経路に関与。9-シスレチノイン酸 (9C-RA) に結合します。ARF6 は、組織特異的脂肪細胞 P2 (aP2) エンハンサーの重要な制御因子として機能します。、オンライン情報:レチノイド X 受容体エントリー、PTM:Lys-108 が SUMO 化され、転写活性を負に制御します。SENP6 によって特異的に脱 SUMO 化されます。、類似性:核ホルモン受容体ファミリーに属します。、類似性:核ホルモン受容体ファミリーに属します。NR2 サブファミリー。、類似性:1つの核受容体 DNA 結合ドメインを含みます。、サブユニット:ホモダイマー、またはペルオキシソーム増殖因子活性化受容体ガンマとヘテロダイマーを形成し、脂肪細胞特異的転写因子 ARF6 と呼ばれます。NCOA3 および NCOA6 コアクチベーターと相互作用し、標的遺伝子の転写を大幅に増加させます。FAM120B と相互作用します DNTTIP2 と相互作用する。RNF8 と相互作用する。組織特異性: 肝臓で高発現し、肺、腎臓、心臓にも存在する。

研究分野

PPAR;アディポサイトカイン;がんにおける経路;甲状腺がん;小細胞肺がん;非小細胞肺がん;

画像データ



U2OS 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、RXRA ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩